

流山市

子ども・子育て支援事業計画策定に関する ニーズ調査報告書 概要版

調査の概要

1 調査票の種類と調査対象者等

図表 調査の実施方法

調査票「子ども・子育て支援事業に計画策定に関するニーズ調査(就学前の子ども用)」	
調査対象者	就学前のこどもの保護者
調査件数	2,000件
調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、定期的な教育・保育事業の現状・利用意向、地域の子育て事業の現状・利用意向、育児休業の現状・利用意向、流山市における子育ての環境や支援等に関する設問
調査票「子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査(小学生用)」	
調査対象者	小学生の保護者
調査件数	1,000件
調査内容	家庭等の子育て環境、保護者の就労状況、放課後の過ごし方、流山市における子育ての環境や支援等に関する設問

2 調査の実施方法と配布・回収状況

(1) 調査時期と調査方法

調査時期：平成25年11月～12月

調査方法：郵送方式により調査票を配布・回収

(2) 調査の配布・回収状況

調査によるそれぞれの配布・回収状況は、以下のとおりです。

図表 調査票の配布・回収状況

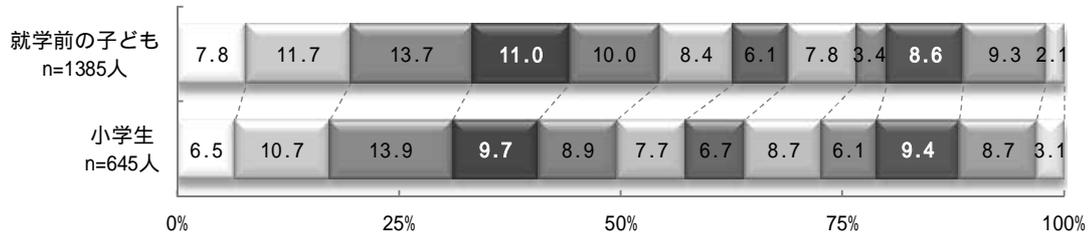
区分	就学前の子どもの保護者			小学生の保護者		
	配布数	回収数	回収率	配布数	回収数	回収率
市全域	2,000人	1,385人	69.2%	1,000人	645人	64.5%

(3) グラフの見方について

調査票「就学前の子どもの保護者」の設問番号に対応しています。

調査票「小学生の保護者」の設問番号に対応しています。

問1 [問1] 地域(MA)

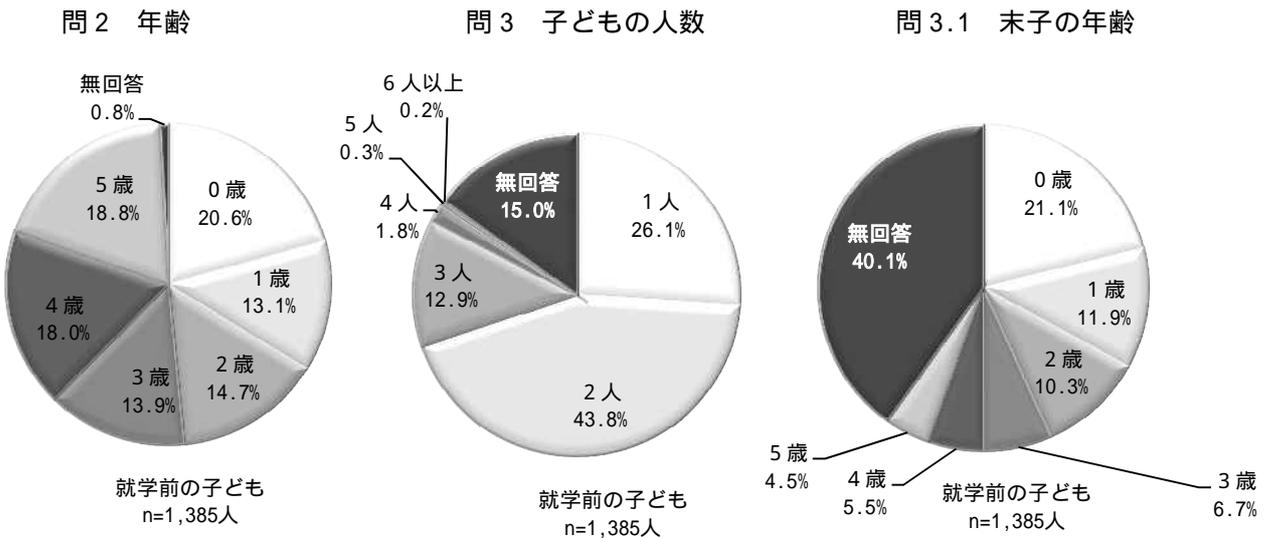


グラフの(n)数は集計対象者数を表しています。また、複数回答の設問は(MA)を表記しています。

3 調査対象者の属性・家族状況

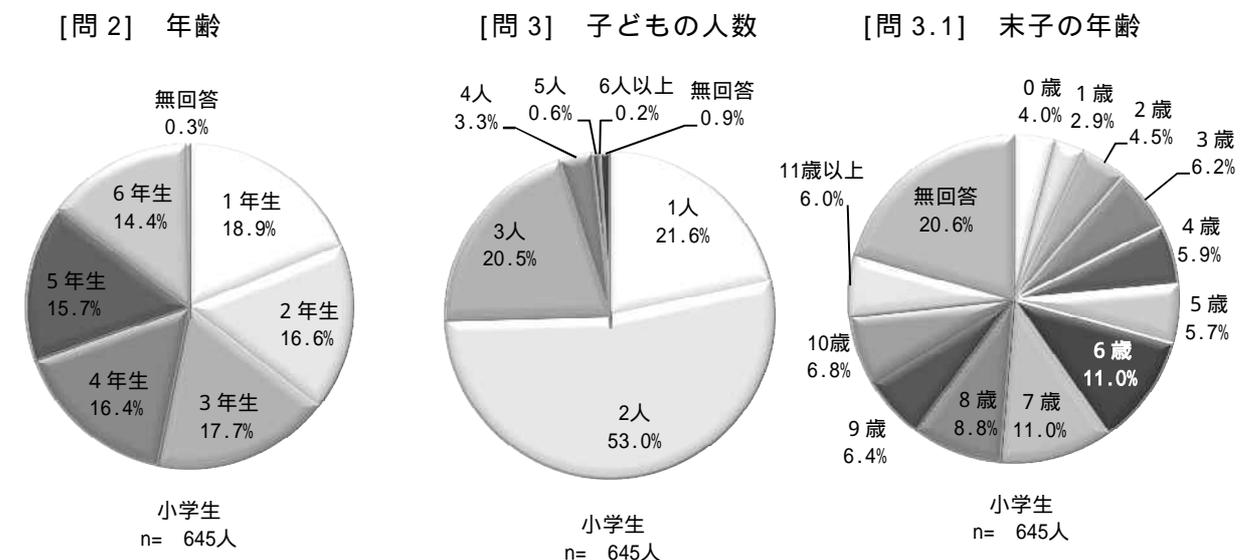
(1) 就学前の子どもの属性

回答された 1,385 件の就学前の子どもの属性は、以下のとおりです。



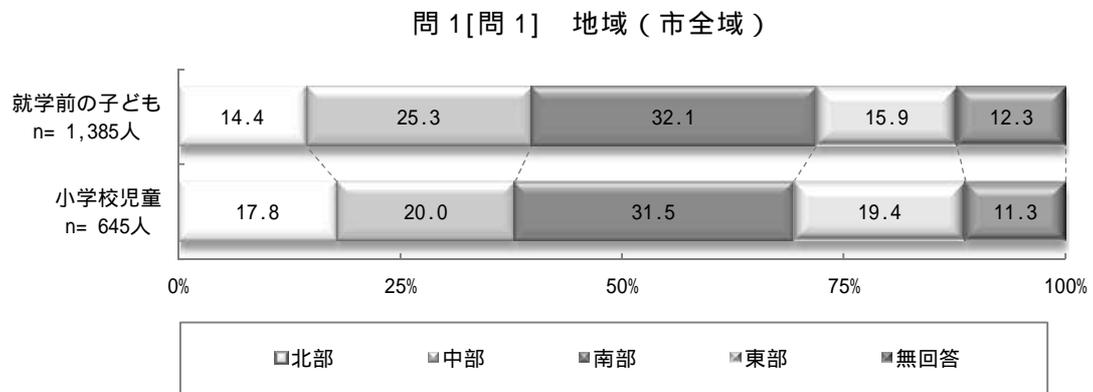
(2) 小学生の属性

回答された 645 件の小学生の属性は、以下のとおりです。



(3) 居住地域の状況

回答者が居住している地域の状況は、以下のとおりです。

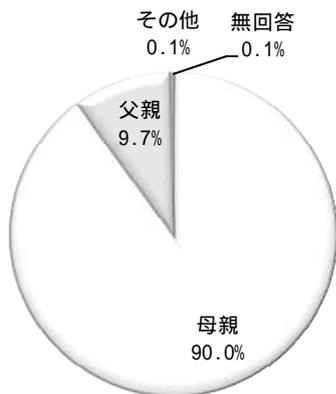


(4) 調査回答者の状況と配偶者の有無

就学前の子ども、小学生ともに、調査回答者は母親が約9割となっています。

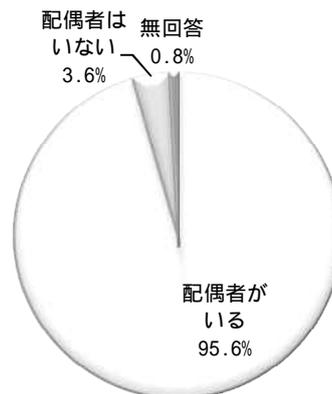
配偶者関係は就学前の子ども、小学生ともに、約9割が「配偶者がいる」と回答しています。

問4 調査回答者（就学前の子ども）



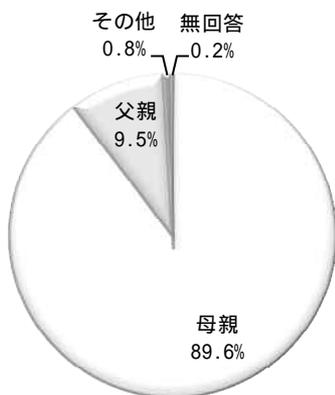
就学前の子ども
n=1,385人

問5 配偶者の有無（就学前の子ども）



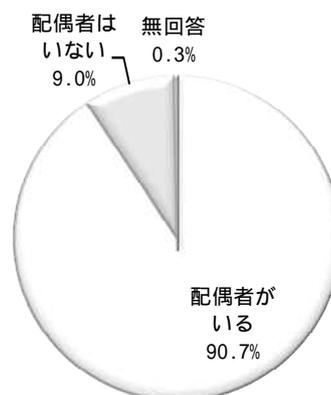
就学前の子ども
n=1,385人

[問4] 調査回答者（小学生）



小学生
n= 645人

[問5] 配偶者の有無（小学生）



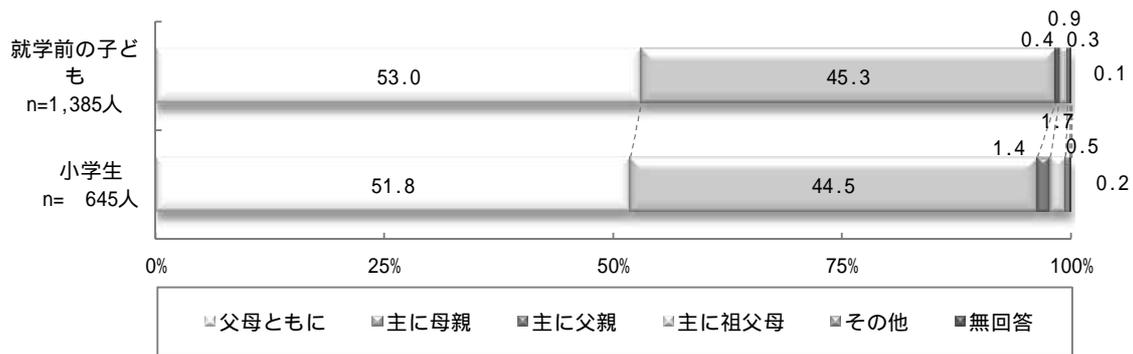
小学生
n= 645人

調査結果

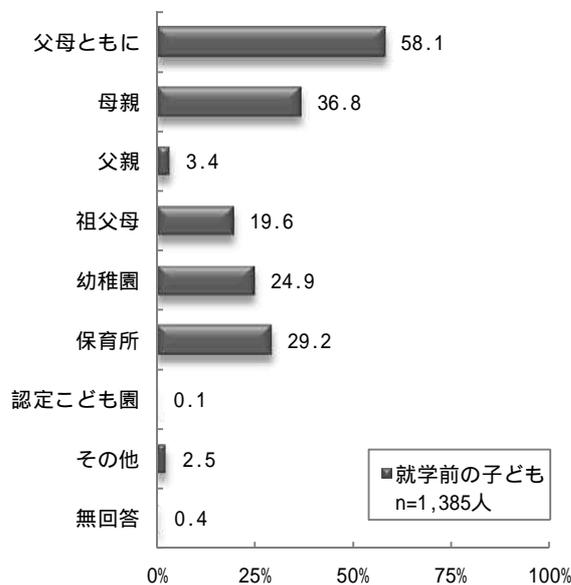
1 子育ての環境について

主な保育者の状況は、就学前の子どもでは「主に母親」が約5割で「父母ともに」よりやや多くなっています。小学生も同様に「主に母親」が約5割となっています。日常的に子育てに関わっている方（施設含む）は、「父母ともに」（58.1%）、「母親」（36.8%）、「保育所」（29.2%）、「幼稚園」（24.9%）の順に多くなっています。また、子育てに影響を与える環境は、就学前の子どもでは「家庭」（94.2%）が最も多く、次いで「幼稚園」（36.8%）、「保育所」（35.1%）、「お住まいの地域」（34.2%）の順に多くなっています。小学生では「小学校」（90.9%）が最も多く、次いで「家庭」（89.9%）、「お住まいの地域」（40.8%）の順に多くなっています。

問6 主な保育者の状況

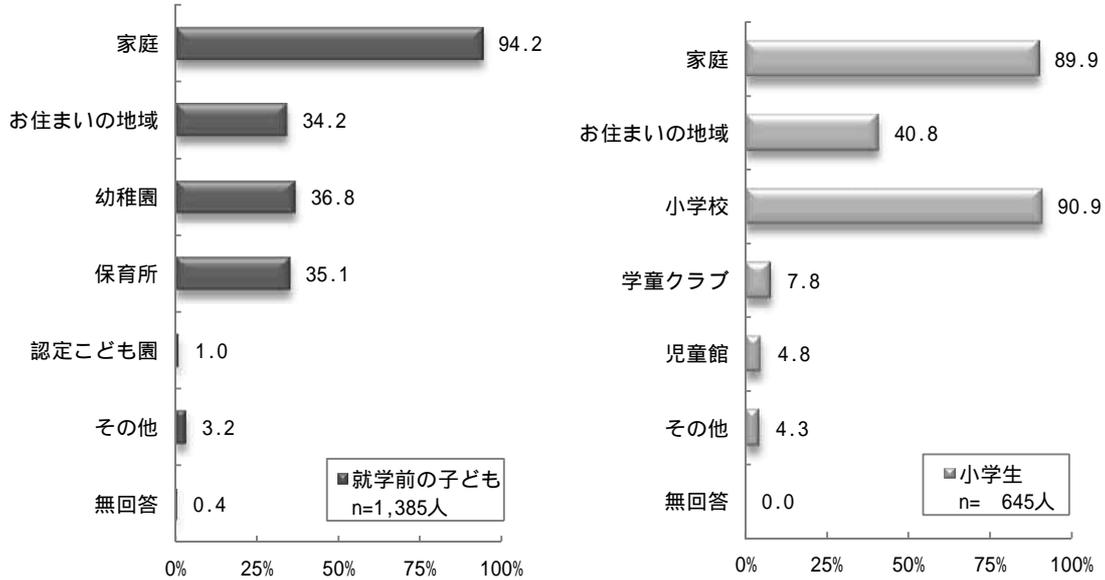


問7 日常的に子育てに関わっている方（施設含む）(MA)



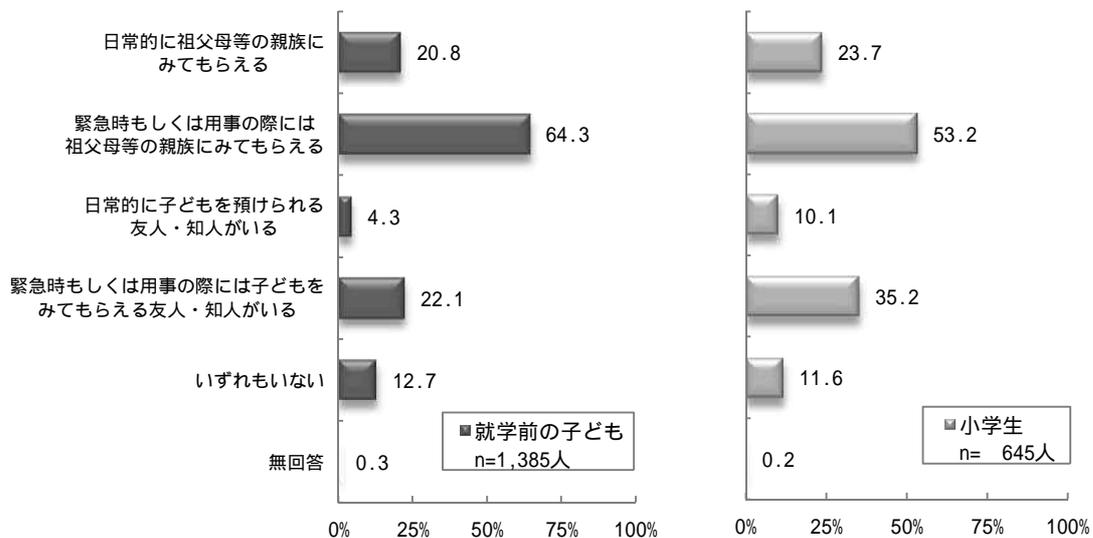


問 8[問 7] 子育てに影響を与える環境 (MA)



主な親族等協力者の状況は、就学前の子ども、小学生ともに「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」(64.3%)(53.2%)が最も多く、次いで「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(22.1%)(35.2%)となっています。一方、「いずれもない」は、就学前の子ども、小学生ともに1割を超えています。

問 9[問 8] 主な親族等協力者の状況 (MA)

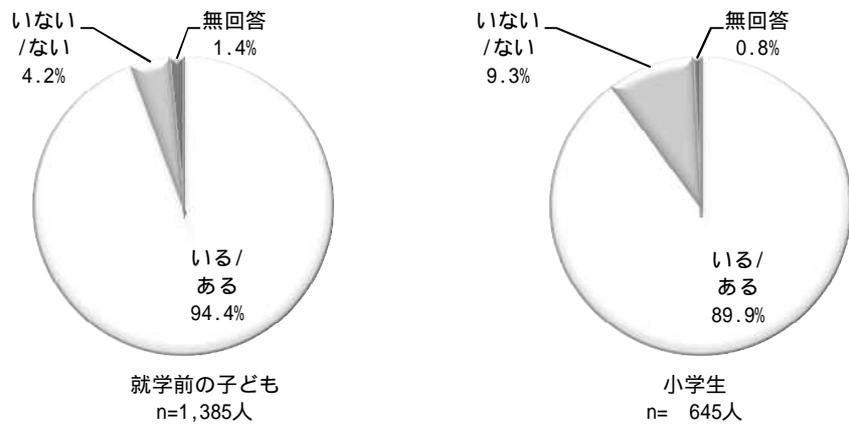




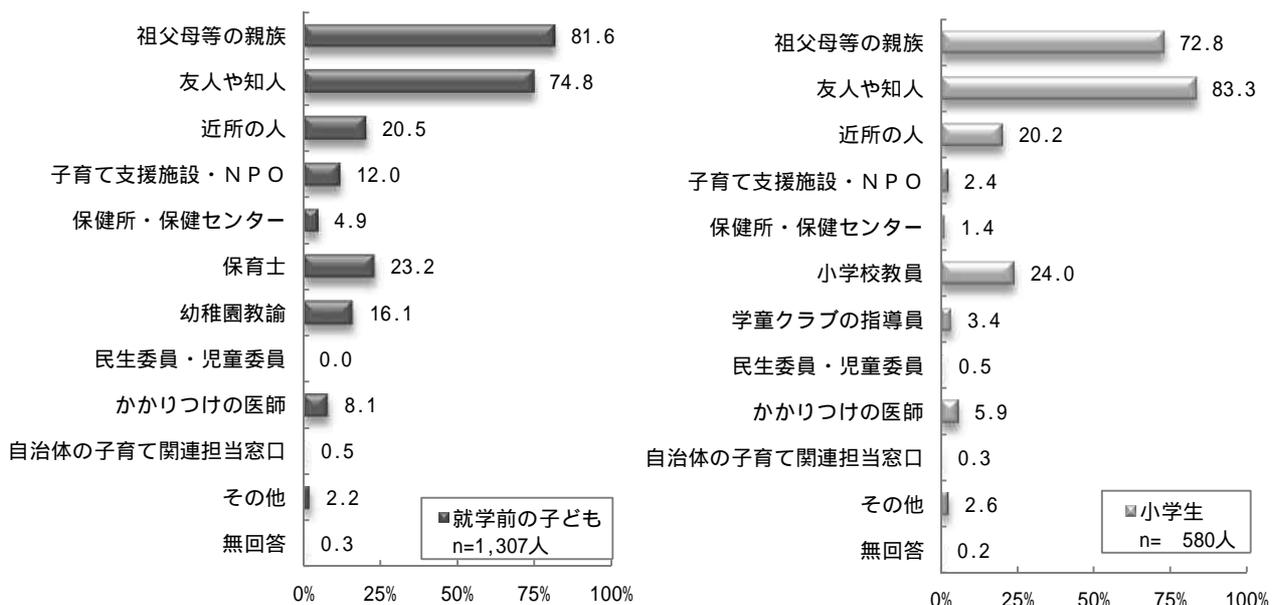
気軽に相談できる人の有無で「いる／ある」は就学前の子ども（94.4%）、小学生（89.9%）となっています。

気軽に相談できる相談者は、就学前の子どもでは「祖父母等の親族」（81.6%）が最も多く、次いで「友人や知人」（74.8%）となっています。小学生では「友人や知人」（83.3%）が最も多く、次いで「祖父母等の親族」（72.8%）となっています。

問 10[問 9] 気軽に相談できる人の有無



問 10-1[問 9-1] 気軽に相談できる相談者の状況（MA）



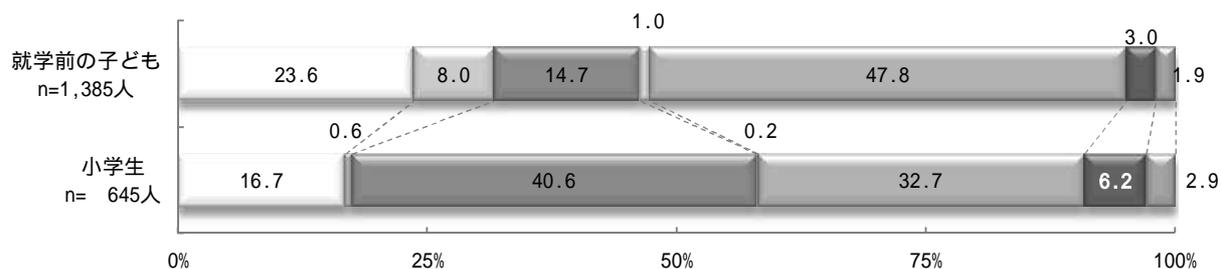
2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

母親の就労状況をみると、就学前の子どもでは「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(23.6%)、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(14.7%)の方が就労し、現在産休・育休・介護・その他休業中の方が9.0%となっています。また、現在就労していない方が50.8%となっています。

小学生では「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(40.6%)、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(16.7%)の方が就労し、現在産休・育休・介護・その他休業中の方が0.8%と就学前の子どもと比べて大きく減少しています。また、現在就労していない方が38.9%となっています。

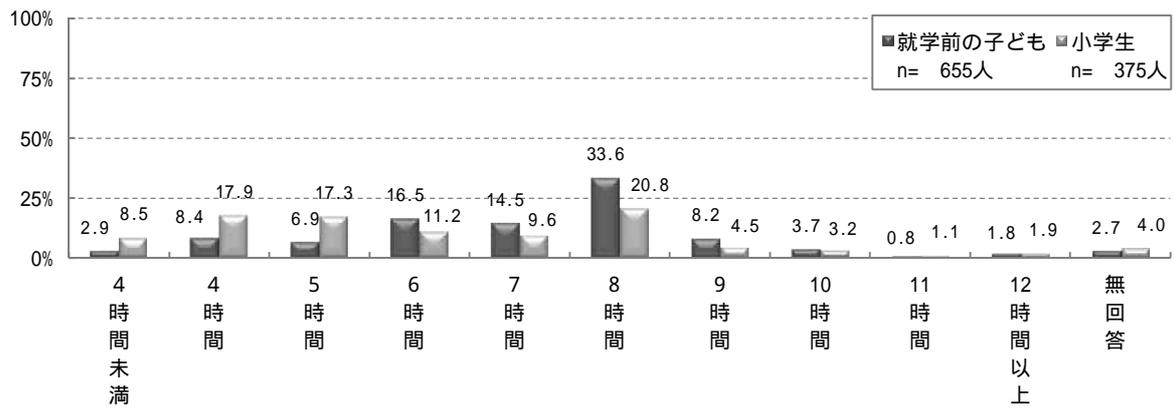
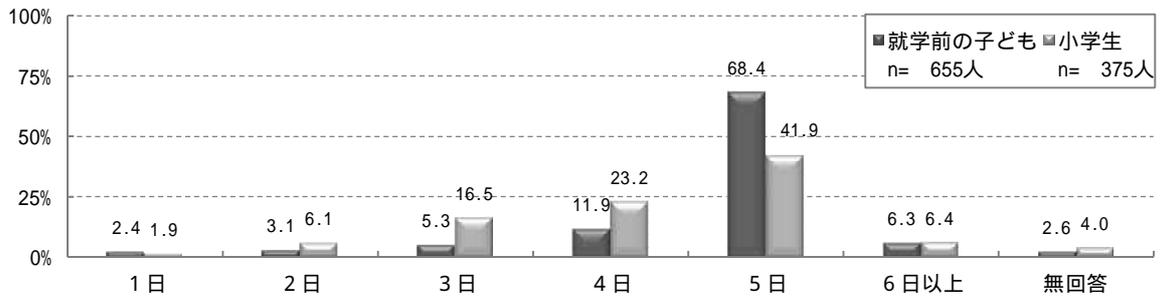
問 12[問 11] 母親の就労状況



- フルタイムで就労しており、産休・育休・介護・その他休業中ではない
- フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護・その他休業中である
- パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護・その他休業中ではない
- パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護・その他休業中である
- 以前は就労していたが、現在は就労していない
- これまで就労したことがない
- 無回答

母親の就労日数・就労時間をみると、就学前の子どもでは「5日」(68.4%)、「8時間」(33.6%)、小学生では「5日」(41.9%)、「8時間」(20.8%)が最も多く、両者ともに「6日以上」が約6%います。

問 12-1[問 11-1] 母親の就労日数(1週当たり)・就労時間(1日当たり)

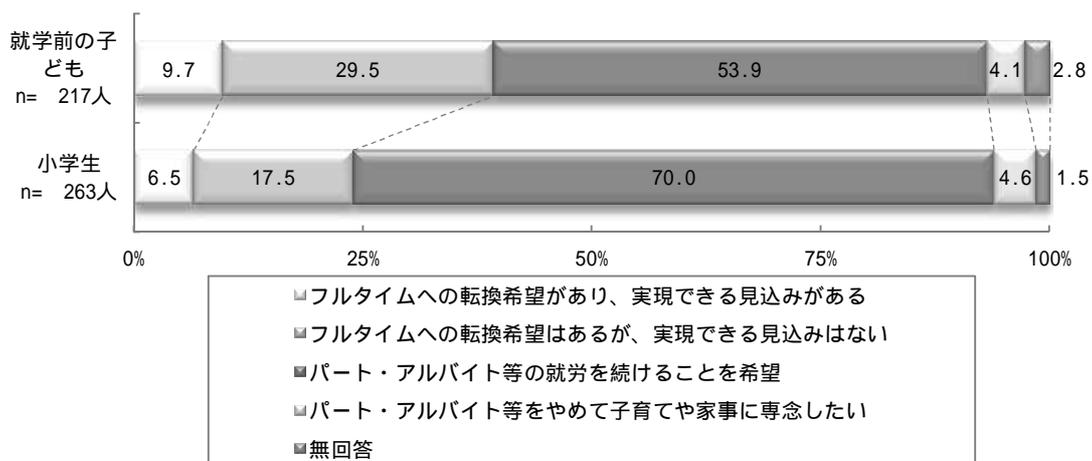


(2) 母親のフルタイム就労への転換希望

母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向をみると、就学前の子どもではフルタイム勤務を希望する方は 39.2% いますが、実現できる見込みのある方は 9.7% と 1 割弱に留まっています。

また、小学生でもフルタイム勤務を希望する方は 24.0% いますが、実現できる見込みのある方は 6.5% となっています。

問 13[問 12] 母親のパートタイムからフルタイム勤務への意向

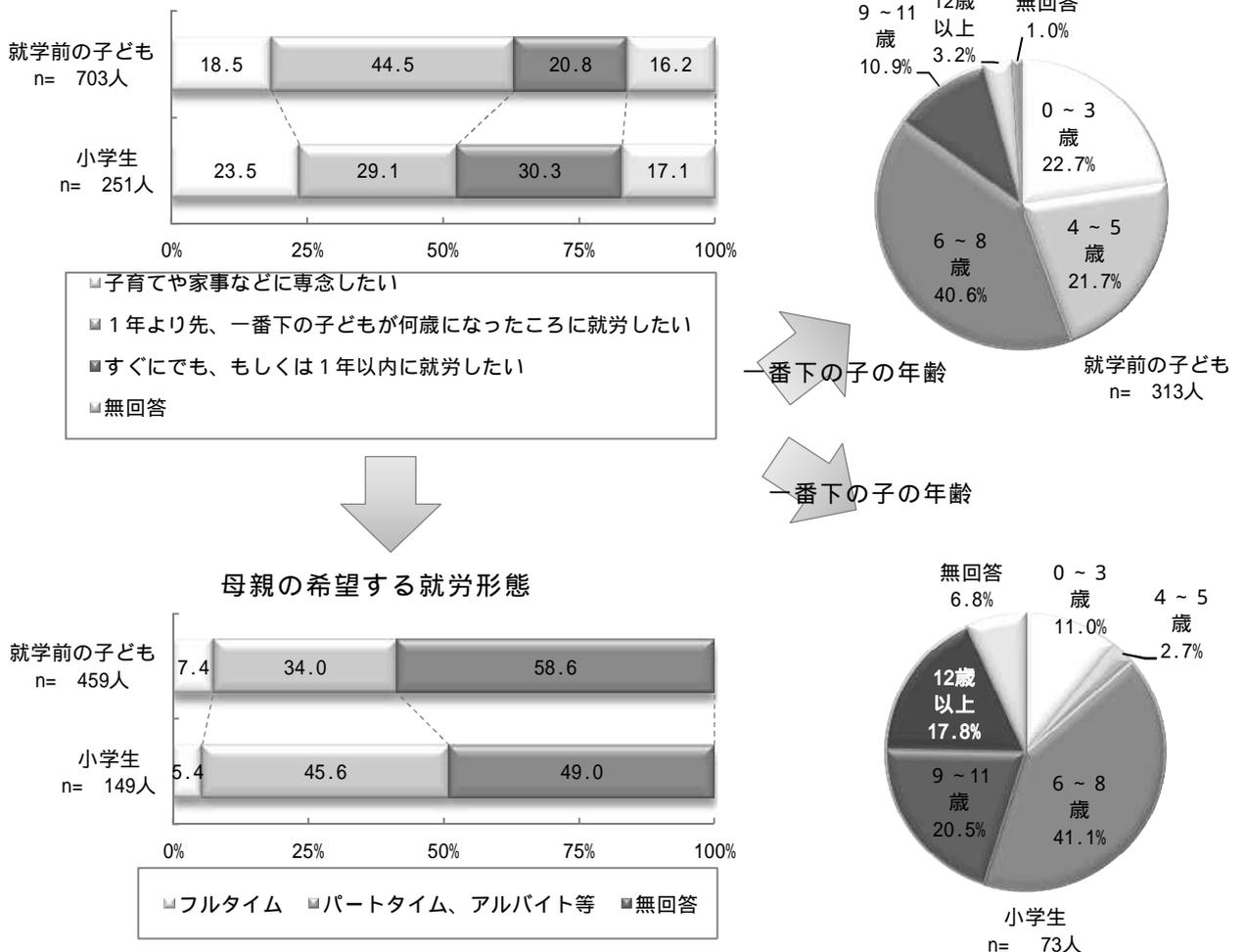


(3) 未就労の母親の就労希望

就労していない母親に対して今後の就労希望を聞いたところ、就学前の子どもでは就労したい方が 65.3% おり、その内訳は「1年より先、一番下の子どもが何歳になったところに就労したい」(44.5%)、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(20.8%)、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」(34.0%)、「フルタイム」(7.4%) となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「6～8歳」(40.6%)、「0～3歳」(22.7%)、「4～5歳」(21.7%) の順となっています。

小学生では就労したい方が 59.4% おり、その内訳は「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」(29.1%)、「1年より先、一番下の子どもが何歳になったところに就労したい」(30.3%)、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」(45.6%)、「フルタイム」(5.4%) となっています。就労時期となる子どもの年齢としては「6～8歳」(41.1%)、「9～11歳」(20.5%)、「12歳以上」(17.8%) の順となっています。

問 14[問 13] 就労していない母親の今後の就労希望と就労希望時の末子の年齢

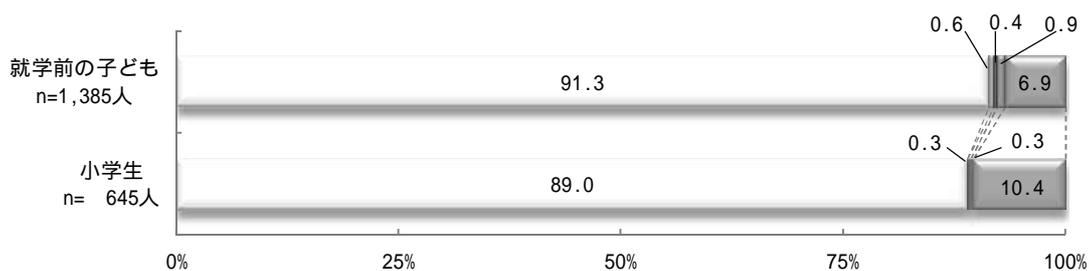


(4) 父親の就労状況

父親の就労状況をみると、就学前の子どもでは「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」(91.3%)が最も多くなっています。

小学生では「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」(89.0%)が就学前の子どもと同様に最も多くなっています。

問 12[問 11] 父親の就労状況



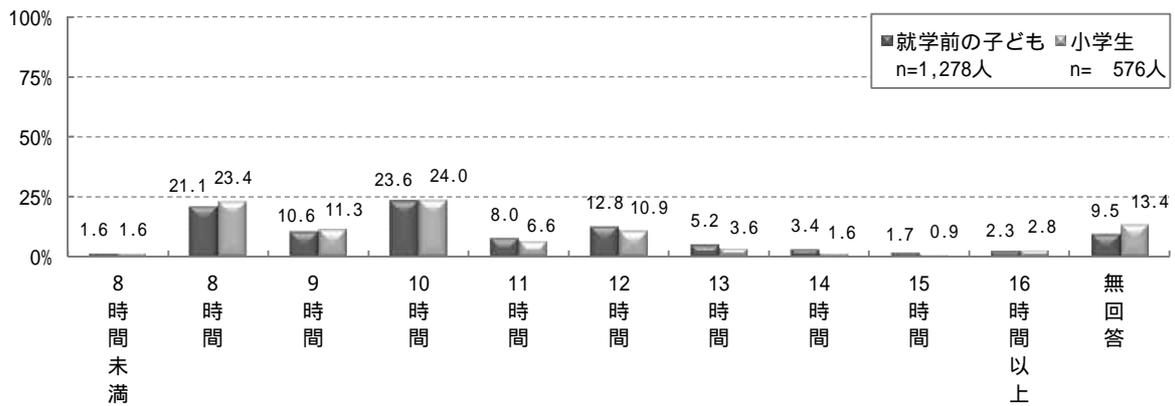
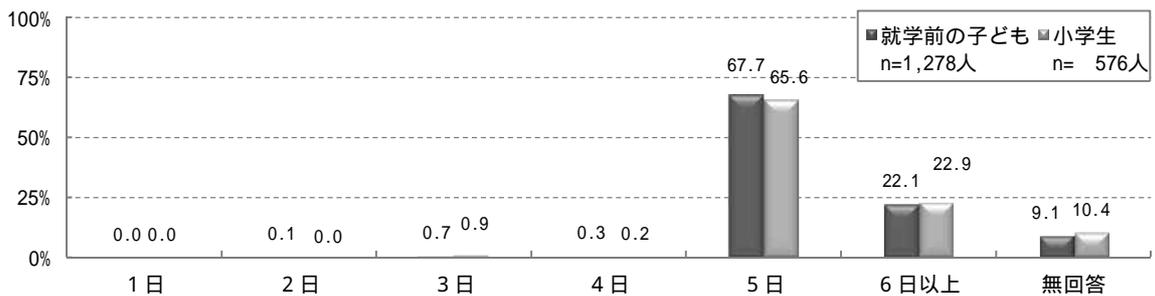
	就学前の子ども	小学生
■フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない	91.3%	89.0%
■フルタイムで就労しているが、育休・介護休業中である	0.6%	-
■パート・アルバイト等で就労しており、育休・介護休業中ではない	0.4%	0.3%
■パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中である	-	-
■以前は就労していたが、現在は就労していない	0.9%	0.3%
■これまで就労したことがない	-	-
■無回答	6.9%	10.4%



父親の就労日数では、「5日」(就学前の子ども 67.7%、小学生 65.6%)、「6日」(就学前の子ども 22.1%、小学生 22.9%)の順に多くなっています。

就労時間では、「10時間」(就学前の子ども 23.6%、小学生 24.0%)、「8時間」(就学前の子ども 21.1%、小学生 23.4%)の順に多くなっています。

問 12-1[問 11-1] 父親の就労日数(1週当たり)・就労時間(1日当たり)



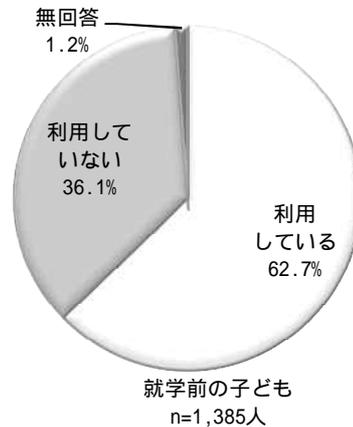
3 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望

定期的な教育・保育事業の利用状況をみると、利用している就学前の子どもは62.7%となっています。

利用中の事業としては、「認可保育所」(48.1%)、「幼稚園」(46.1%)、「送迎保育ステーション」(3.7%)、「幼稚園の預かり保育」(3.1%)の順に多くなっています。

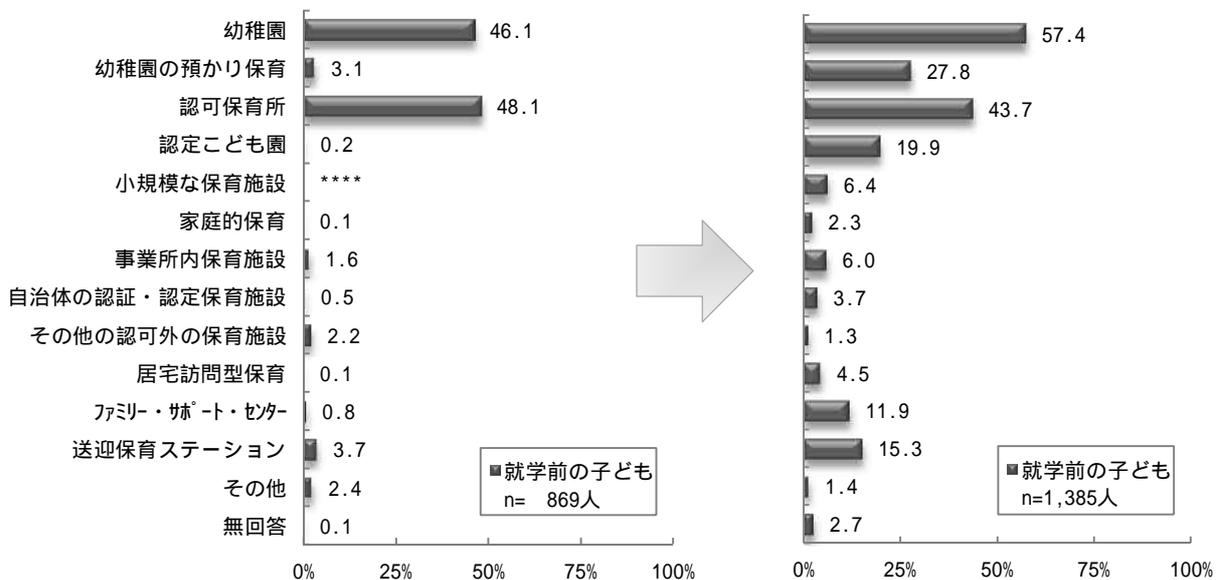
希望する事業は、「幼稚園」(57.4%)が最も多くなっています。また、「幼稚園の預かり保育」(27.8%)、「認定こども園」(19.9%)などが大きく増加しています。

問 15 定期的な教育・保育事業の利用状況



問 15-1 利用中の定期的な教育・保育事業(MA)

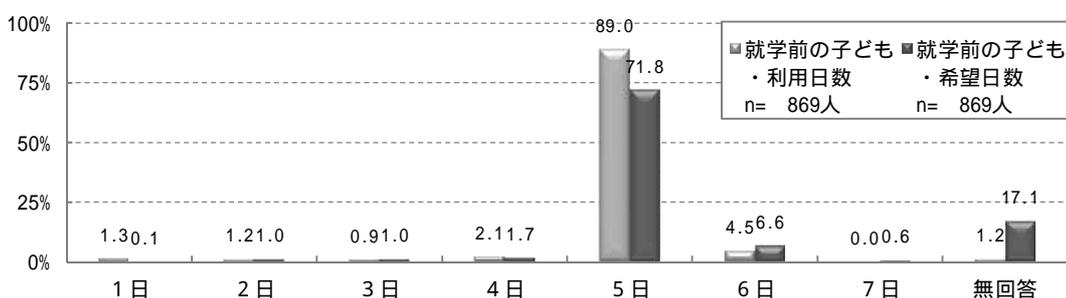
問 16 希望する定期的な教育・保育事業(MA)



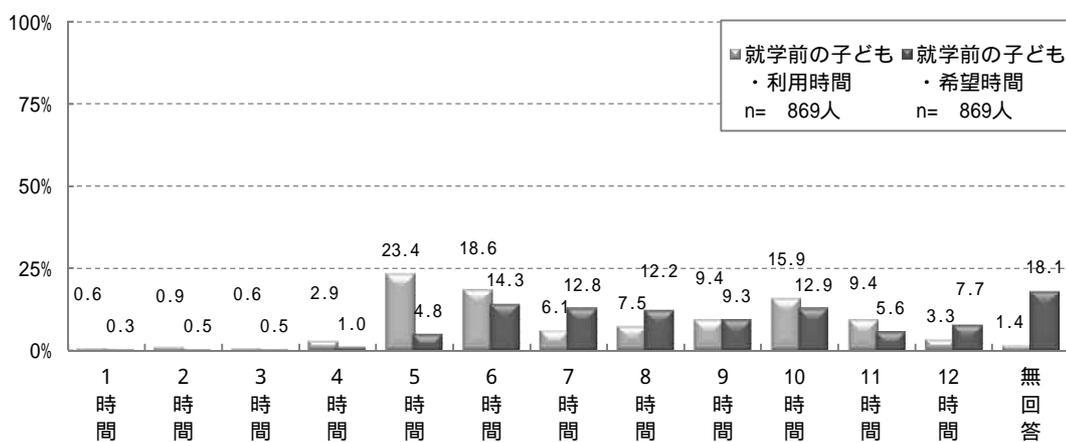
定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（1週当たり）をみると、利用では「5日」（89.0%）、「6日」（4.5%）の順に多く、希望では「5日」（71.8%）が減少した一方で「6日」（6.6%）がやや増加しています。

また、利用時間と希望時間（1日当たり）について、利用では「5時間」（23.4%）、「6時間」（18.6%）、「10時間」（15.9%）の順に多くなっています。希望では「5時間」「6時間」「10時間」「11時間」が減少し、「7時間」「8時間」「12時間」が増加しています。

問 15-2(1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用日数と希望日数（1週間当たり）



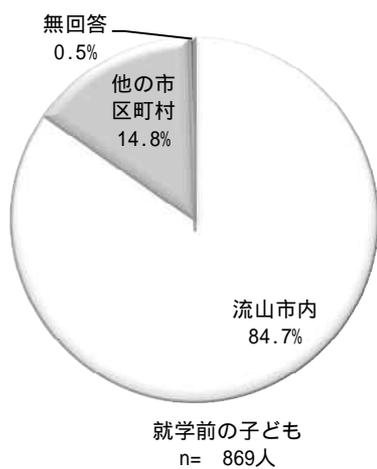
問 15-2 (1)(2) 定期的な教育・保育事業の利用時間と希望時間（1日当たり）



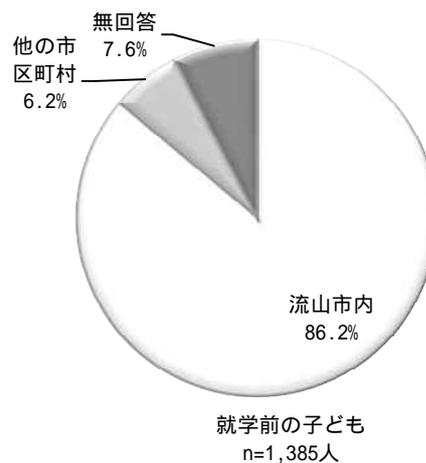
定期的な教育・保育事業の教育・保育施設の利用場所は、「流山市内」(84.7%)と回答し、ほとんどの方が市内の施設を利用しています。

希望する実施場所としては、「流山市内」(86.2%)となっています。

問 15-3 教育・保育の実施場所



問 16-1 教育・保育の希望実施場所



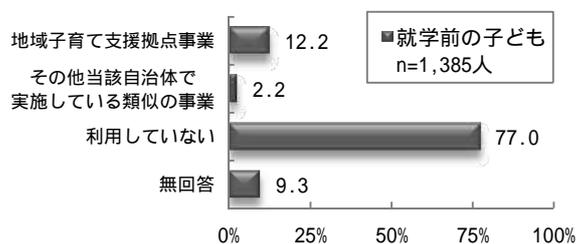
4 地域子育て支援事業の利用状況と今後の利用意向

(1) 地域子育て支援拠点事業の利用について

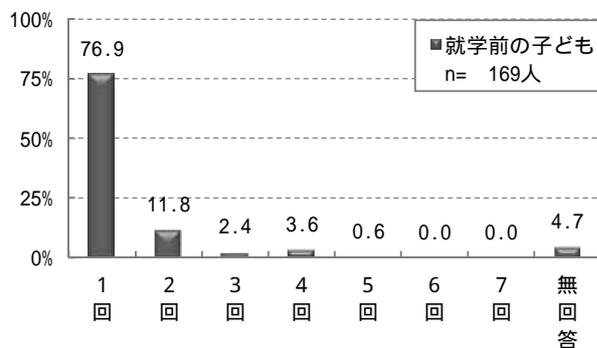
地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「地域子育て支援拠点事業」の利用者が12.2%、その他の類似事業の利用者が2.2%となっています。

地域子育て支援拠点事業の利用回数(1週当たり)は、「1回」(76.9%)が最も多く、次いで「2回」(11.8%)、「4回」(3.6%)の順になっています。

問 17 地域子育て支援拠点事業の利用状況(MA)



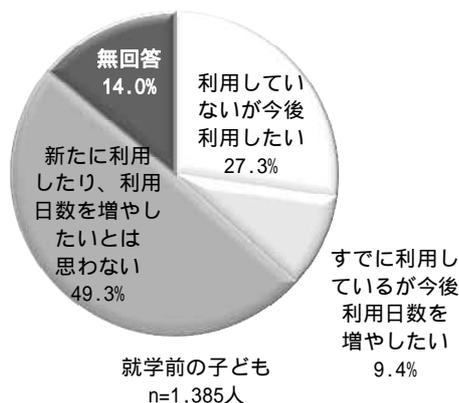
問 17.1 地域子育て支援拠点事業の利用回数(1週当たり)



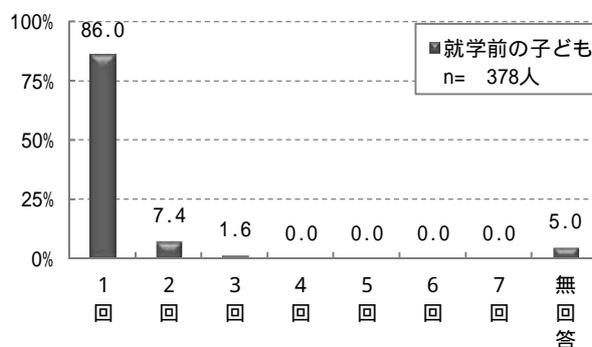
今後の利用希望は、「利用していないが今後利用したい」(27.3%)、「すでに利用しているが今後利用日数を増やしたい」(9.4%)となっています。

未利用者の希望利用回数(1週当たり)は、「1回」(86.0%)が最も多くなっています。また、利用者の増やしたい利用回数(1週当たり)は、就学前の子どもで「1回」(61.5%)、「2回」(20.8%)の順に多くなっています。

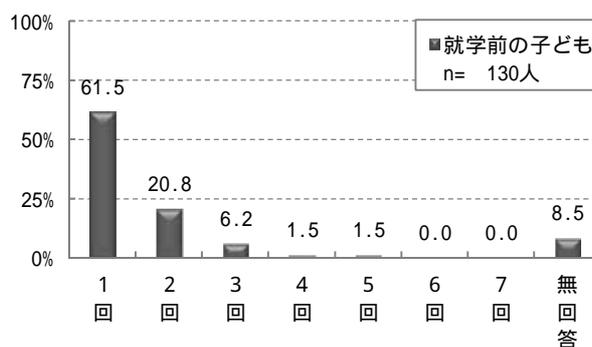
問 18 今後の利用希望



問 18.1 未利用者の希望利用回数(1週当たり)



問 18.2 利用者の増やしたい利用回数(1週当たり)

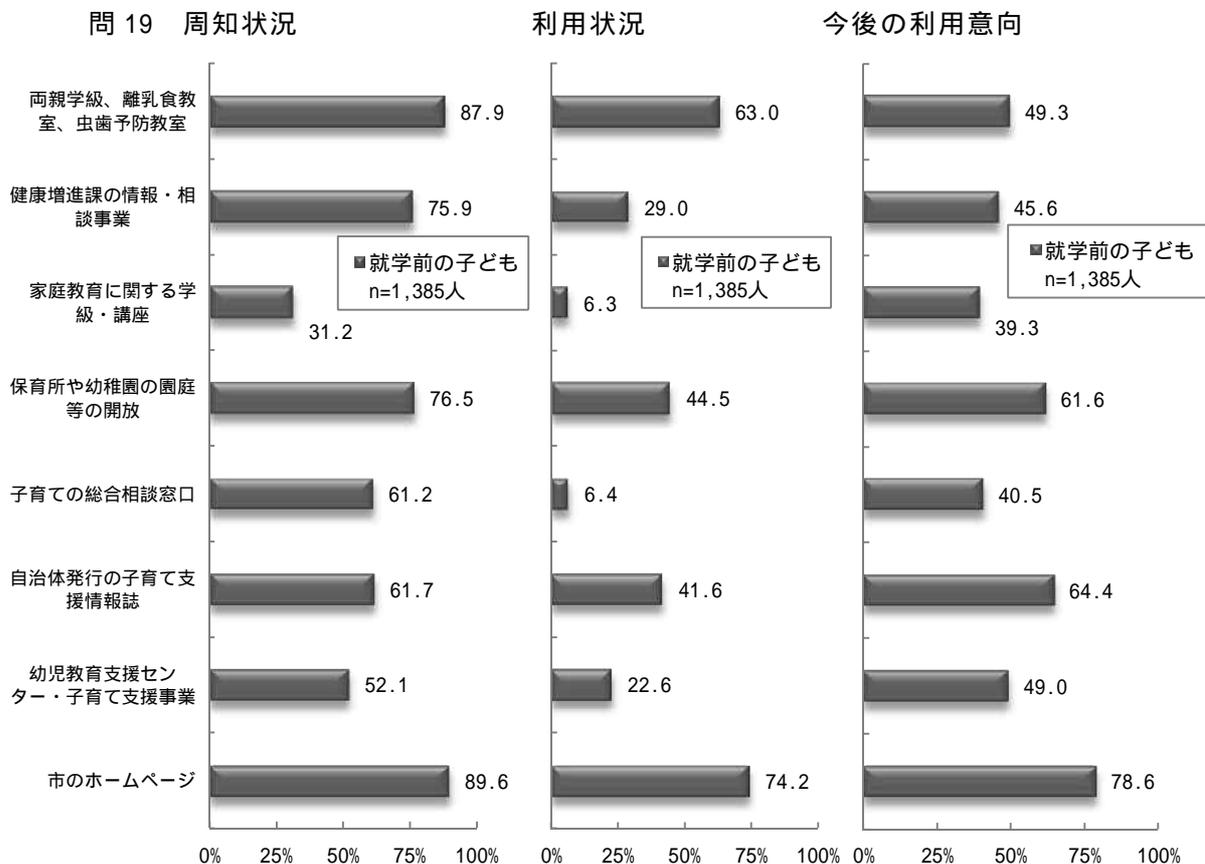


(2) 子育て支援事業の周知・利用状況と今後の利用意向について

子育て支援事業の周知度をみると、就学前の子どもでは「市のホームページ」(89.6%)、「両親学級・離乳食教室・むし歯予防教室」(87.9%)、「保育所や幼稚園の園庭等の解放」(76.5%)が上位を占めています。

周知度が高くても利用が少ない事業は、「子育ての総合相談窓口」(6.4%)、「家庭教育に関する学級・講座」(6.3%)などがあげられます。

今後の利用希望が多い事業は、「市のホームページ」(78.6%)が最も多く、「自治体発行の子育て支援情報誌」「保育所や幼稚園の園庭等の開放」も6割を超えて多くなっています。



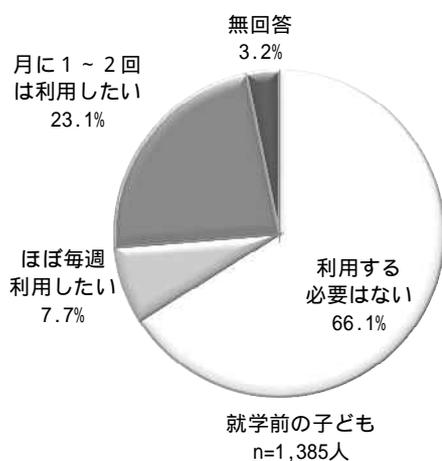
5 休日の教育・保育事業の利用意向

土曜日の利用希望は、「月に1～2回は利用したい」(23.1%)、「ほぼ毎週利用したい」(7.7%)となっています。

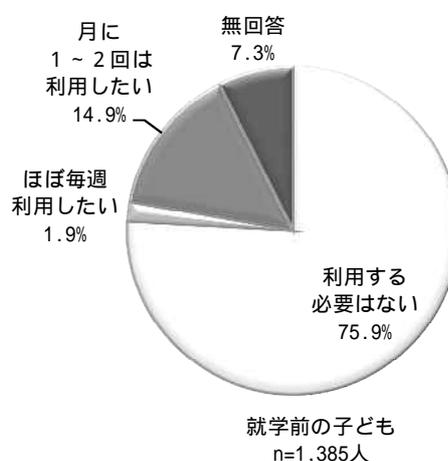
日曜・祝日の利用希望は、「月に1～2回は利用したい」(14.9%)、「ほぼ毎週利用したい」(1.9%)となっています。

長期休暇中において教育・保育事業の利用希望(幼稚園利用者)は、「休みの期間中、週に数日利用したい」(45.1%)、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」(9.7%)となっています。

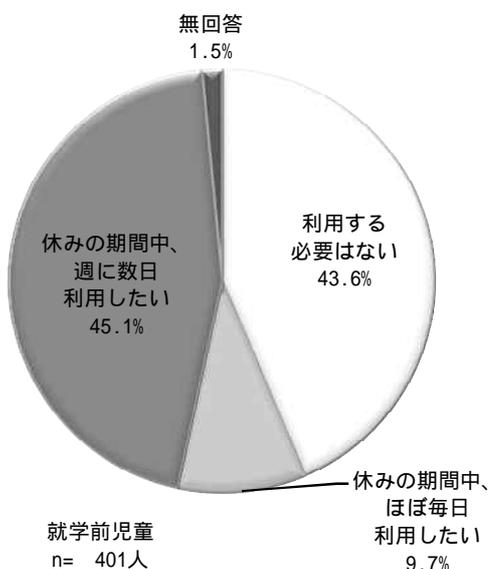
問 21(1) 土曜日の利用希望



問 21(2) 日曜・祝日の利用希望



問 22 長期休暇中の教育・保育事業の利用希望(幼稚園利用者)

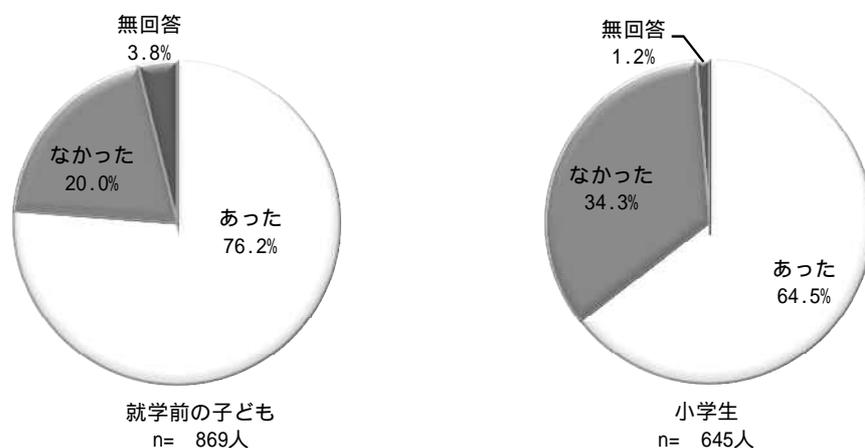


6 病児・病後児保育事業の潜在ニーズ

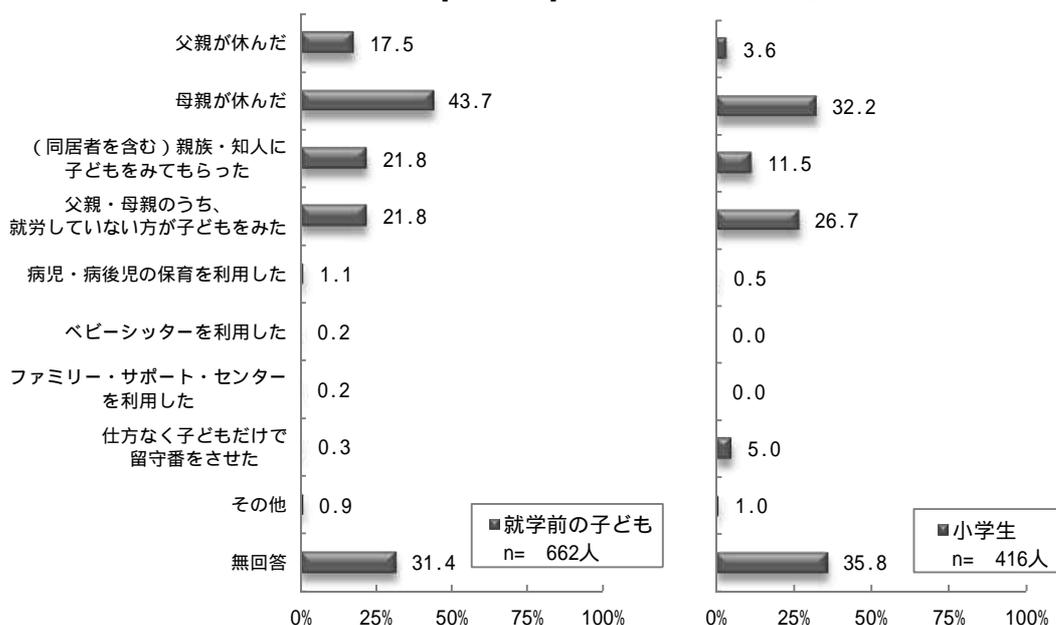
就学前の子どもの保護者の76.2%の方が、病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった体験をしています。その際の対処方法は、「母親が休んだ」(43.7%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」「父親・母親のうち、どちらか就労していない方が子どもをみた」(各21.8%)、「父親が休んだ」(17.5%)の順に多くなっています。

小学生では、64.5%の方が、病気やケガで通常の教育・保育事業が利用できなかった体験をしています。その際の対処方法は、「母親が休んだ」(32.2%)、「父親・母親のうち就労していない方が子どもをみた」(26.7%)、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」(11.5%)の順に多くなっています。

問24[問21] 病気やケガで、通常の事業が利用できなかったことの有無



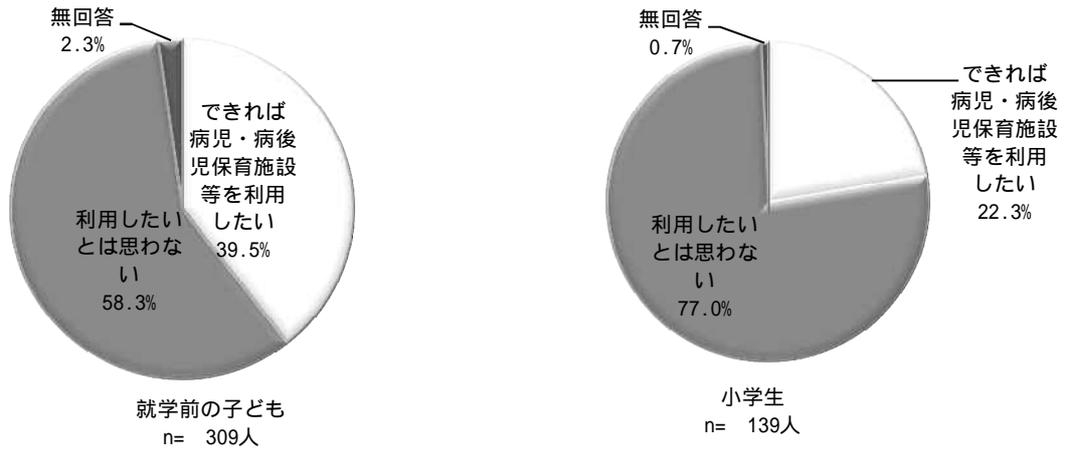
問24-1[問21-1] この1年間の対処方法



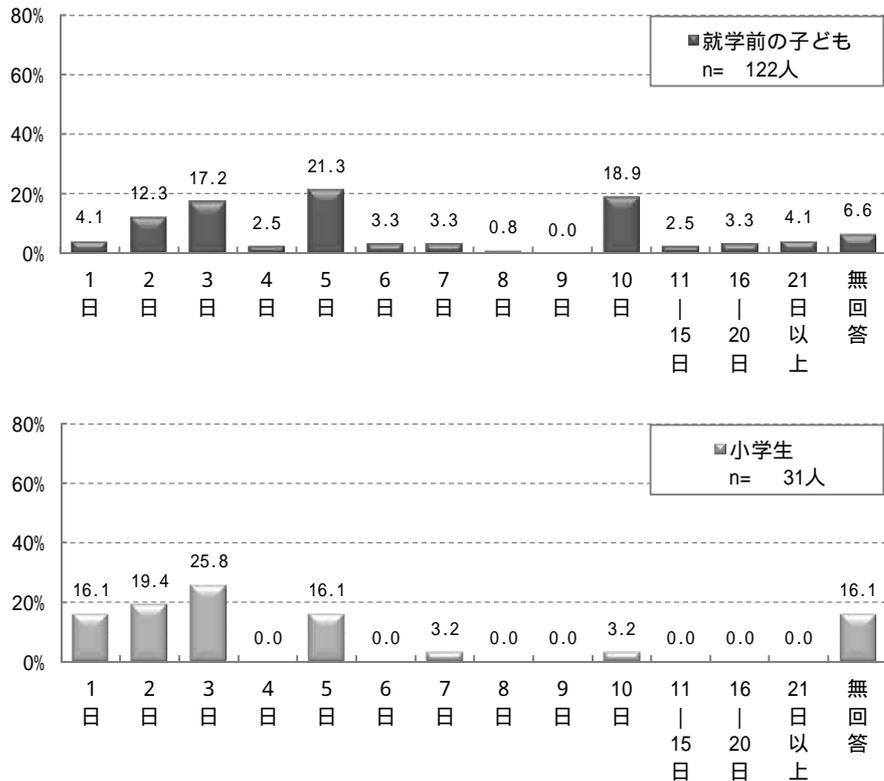
父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設の利用意向をみると、就学前の子どもでは 39.5%の方が利用を希望し、その利用希望日数は「5日」(21.3%)、「10日」(18.9%)の順に多くなっています。

小学生では、22.3%の方が利用を希望し、その利用希望日数は、「3日」(25.8%)、「2日」(19.4%)の順に多くなっています。

問 24-2[問 21-2] 父親・母親が休んだ方の病児・病後児保育施設利用意向

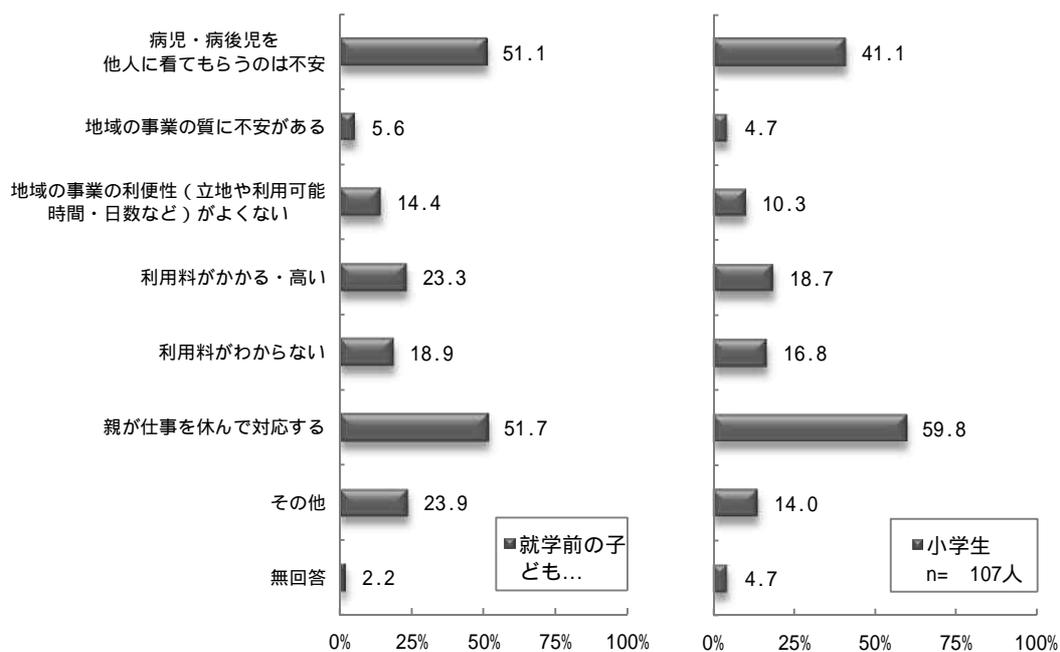


問 24-2.1[問 21-2.1] 子どもを預ける場合の望ましい希望日数(年間)



利用意向のない方の理由としては、就学前の子ども児童、小学生とも「親が仕事を休んで対応する」(51.7%)(59.8%)が最も多く、次いで「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」(51.1%)(41.1%)となっています。

問 24-4[問 21-4] 病児・病後児のための保育施設利用意向のない方の理由



父母が休む以外の対処方法を選んだ方に対して「父母が休んで看たい」という意向をみると、就学前の子どもでは「できれば仕事を休んで看たい」(31.0%)、「休んで看ることは非常に難しい」(33.8%)となっています。

小学生では「できれば仕事を休んで看たい」(30.8%)、「休んで看ることは非常に難しい」(29.1%)となっています。

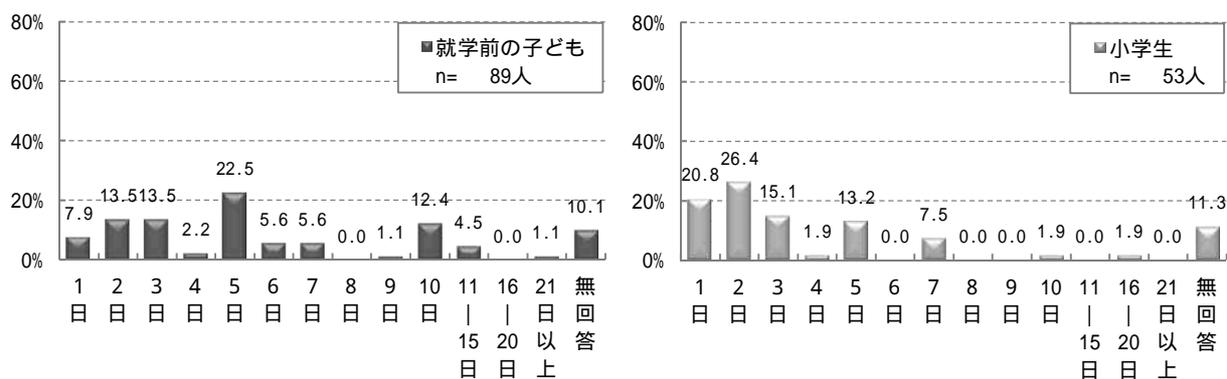
父母が休んで看たい希望日数は、就学前の子どもでは「5日」(22.5%)、「2日」「3日」(各13.5%)、「10日」(12.4%)の順に多くなっています。

小学生では、「2日」(26.4%)、「1日」(20.8%)、「3日」(15.1%)の順に多くなっています。

問 24-5[問 21-5] 父母が休む以外の対処方法を選んだ方の「父母が休んで看たい」意向



問 24-5.1[問 21-5.1] 「父母が休んで看たい」希望日数

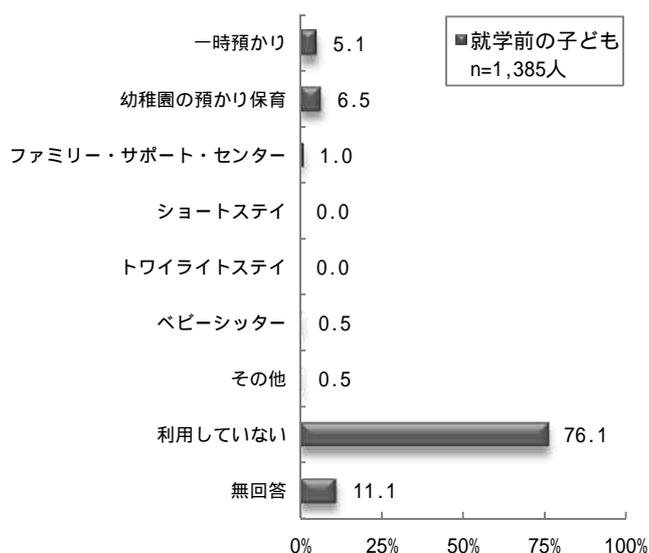


7 不定期の一時保育の利用について

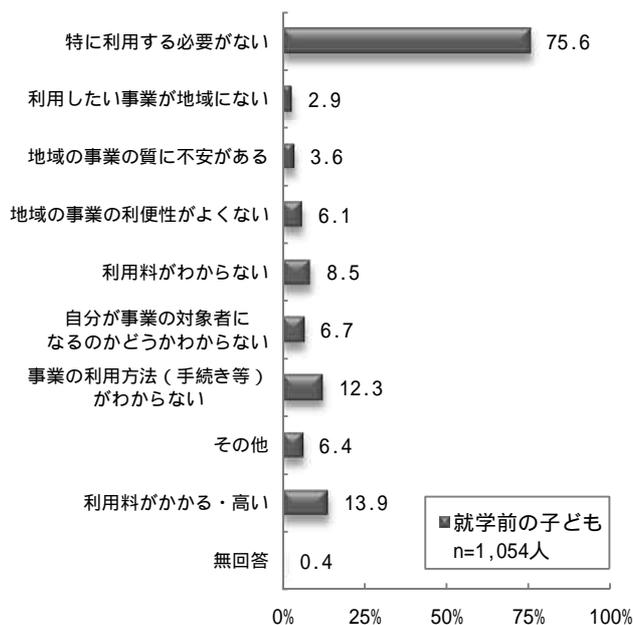
就学前の子どもの不定期の一時預かり等の利用状況をみると、「幼稚園の預かり保育」(6.5%)、「一時預かり」(5.1%)となっています。

利用していない理由は、「特に利用する必要がない」(75.6%)、「利用料がかかる・高い」(13.9%)、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」(12.3%)の順に多くなっています。

問 25 不定期の一時預かり等事業の利用状況 (MA)



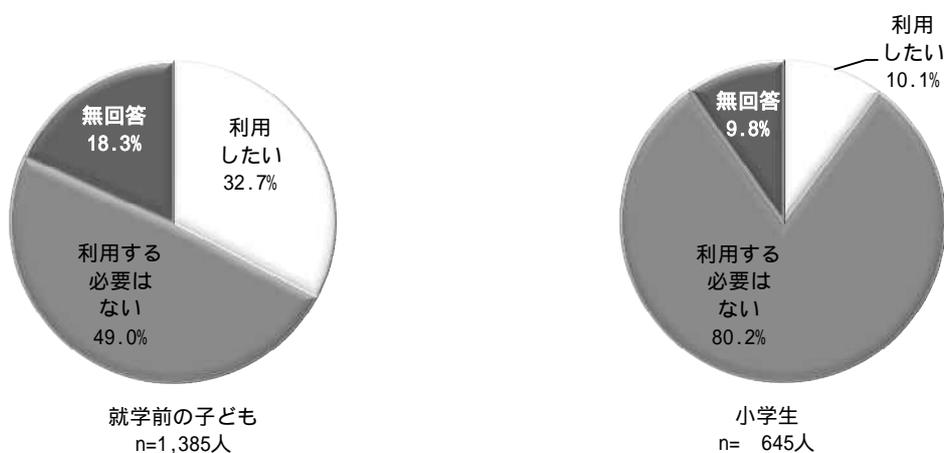
問 25-1 一時預かり等を利用していない理由 (MA)



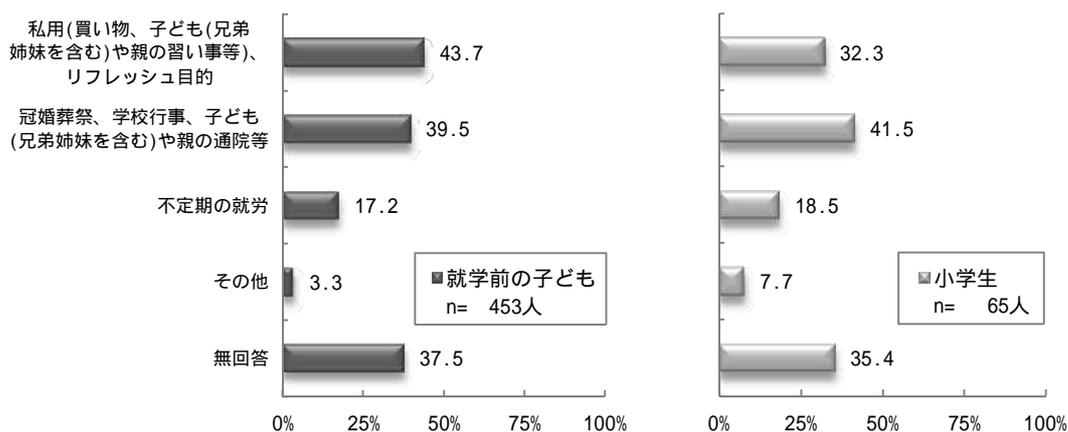
不定期の一時預かり等の利用希望とその目的は、就学前の子どもでは「利用する必要はない」(49.0%)、「利用したい」(32.7%)となっています。利用したい方の利用目的は、「私用、リフレッシュ目的」(43.7%)、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(39.5%)、「不定期の就労」(17.2%)の順に多くなっています。

小学生では、「利用する必要はない」(80.2%)、「利用したい」(10.1%)となっています。利用したい方の利用目的は、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」(41.5%)、「私用、リフレッシュ目的」(32.3%)、「不定期の就労」(18.5%)の順に多くなっています。

問 26[問 23] 不定期の一時預かり等の利用希望



問 26[問 23] 不定期の一時預かり等の目的 (MA)



8 放課後の過ごし方について

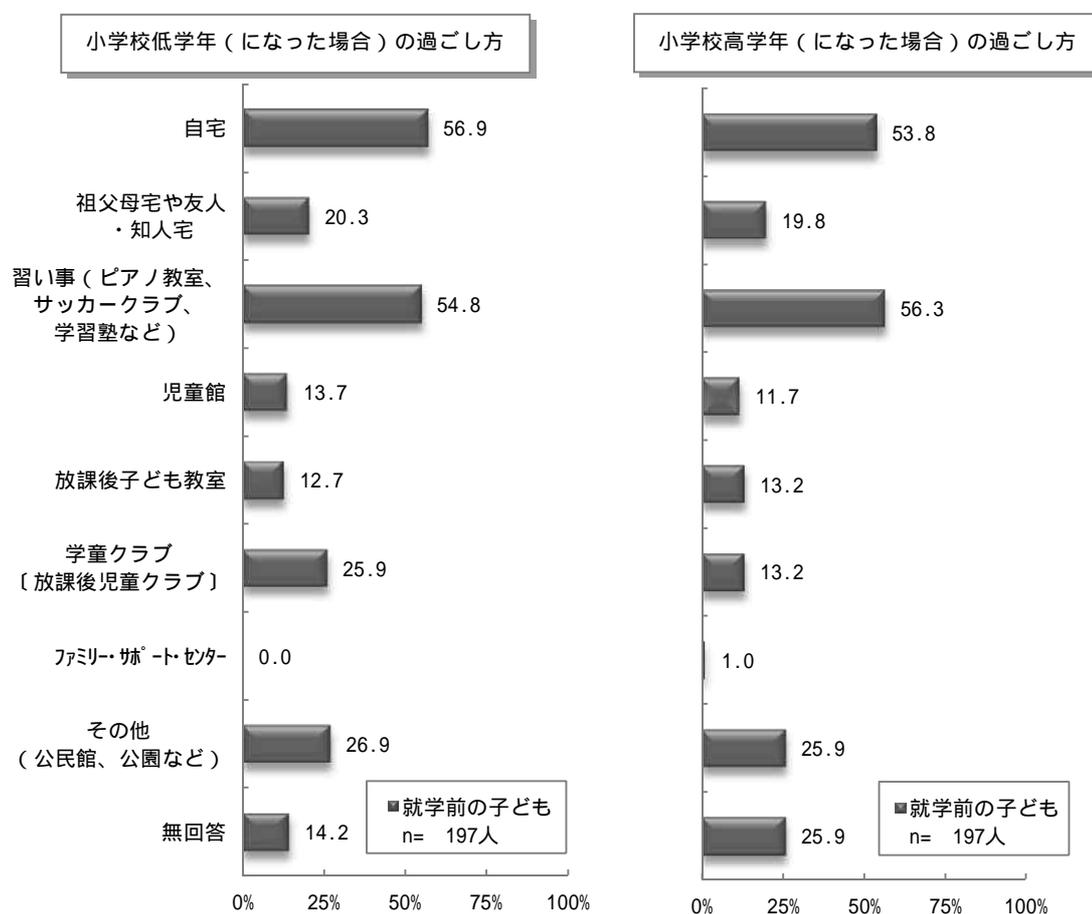
(1) 平日の放課後の過ごし方について

放課後の過ごし方をみると、就学前の子どもでは小学校低学年のうち「自宅」(56.9%)、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(54.8%)の順に希望しています。

また、小学校高学年では「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」(56.3%)、「自宅」(53.8%)となっています。

学童クラブの希望は、低学年(25.9%)、高学年(13.2%)となっています。

問 28・問 29 放課後の過ごし方の希望

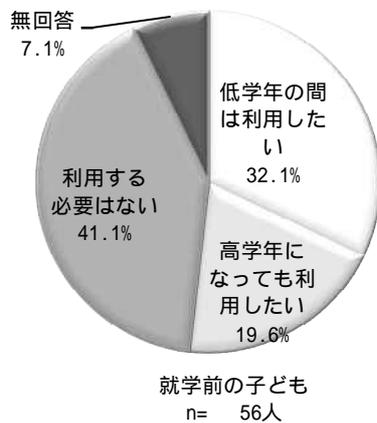


「小学校低学年」は1～3年生、「小学校高学年」は4～6年生、「小学生」は1～6年生の意味です。

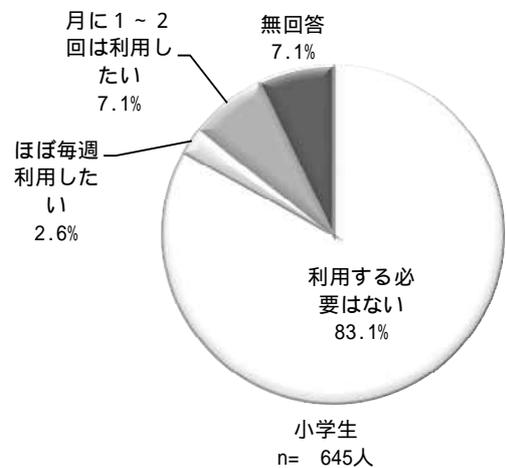
(2) 土曜・休日の放課後学童クラブ利用について

学童クラブの土曜・休日の利用希望をみると、就学前の子どもでは「低学年の間は利用したい」(土曜 32.1%・休日 3.6%)、「高学年になっても利用したい」(土曜 19.6%・休日 7.1%)、「利用する必要はない」(土曜 41.1%・休日 80.4%)となっています。一方、小学生では「月に1～2回は利用したい」(土曜 7.1%・休日 6.7%)、「ほぼ毎週利用したい」(土曜 2.6%・休日 0.8%)、「利用する必要はない」(土曜 83.1%・休日 82.2%)となっています。

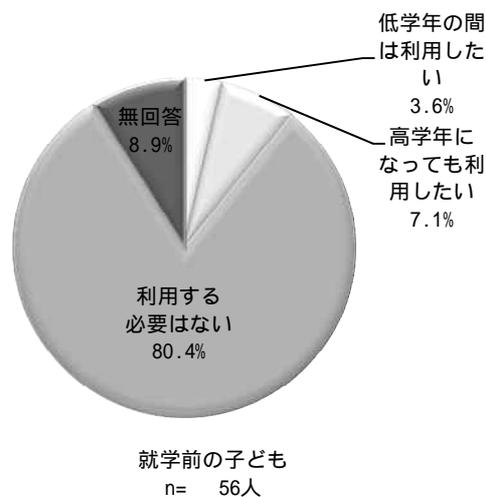
問 30(1) 土曜日の利用希望



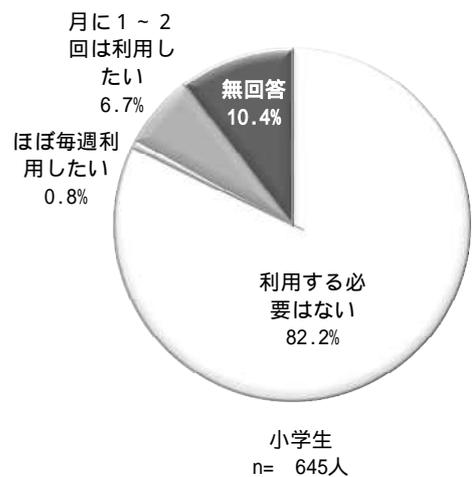
[問 16(1)] 土曜日の利用希望



問 30(2) 日曜・祝日の利用希望



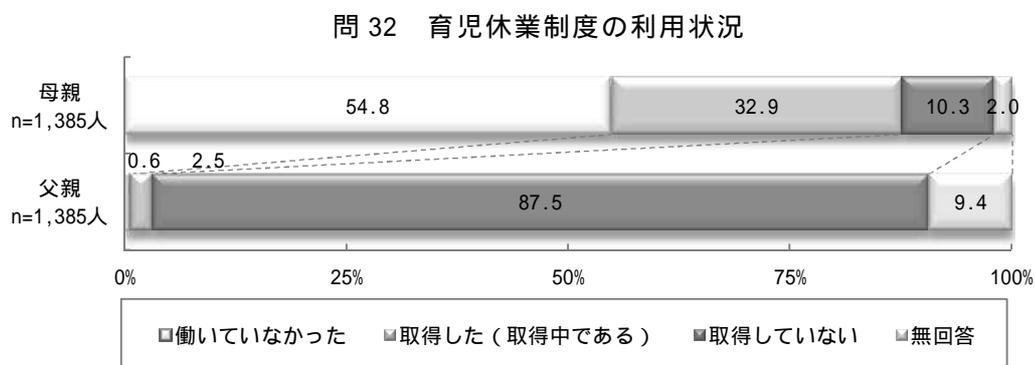
[問 16(2)] 日曜・祝日の利用希望



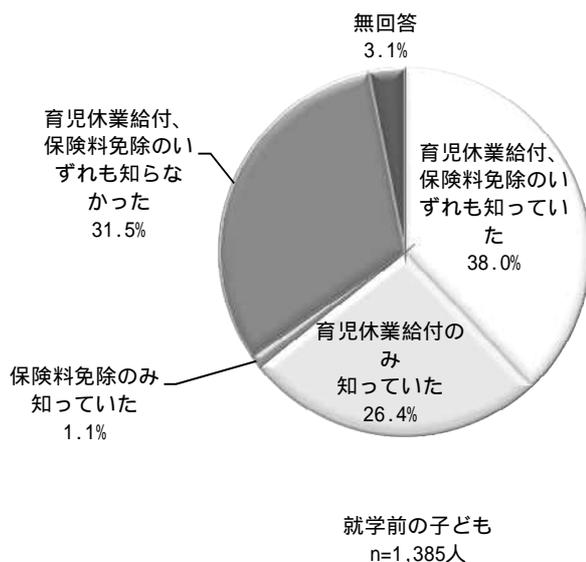
9 育児休業制度の利用状況

育児休業制度の利用状況をみると、母親は「取得した（取得中である）」（32.9％）に対して、父親は「取得した（取得中である）」（2.5％）となっています。

育児休業給付と社会保険料免除の仕組みの認知状況をみると、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」（38.0％）、「育児休業給付のみを知っていた」（26.4％）、「保険料免除のみを知っていた」（1.1％）となっている一方、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」（31.5％）となっています。



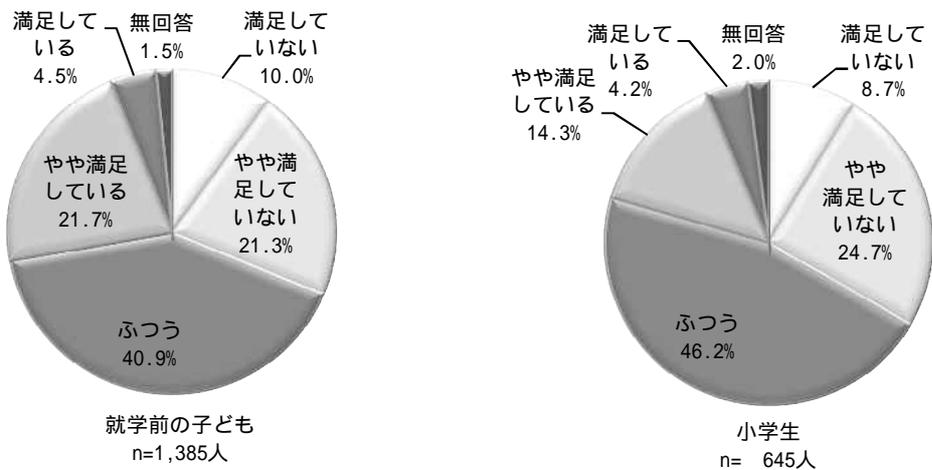
問 32-1 育児休業給付の支給と社会保険料免除の仕組みを知っている



10 流山市の子育ての環境や支援への満足度

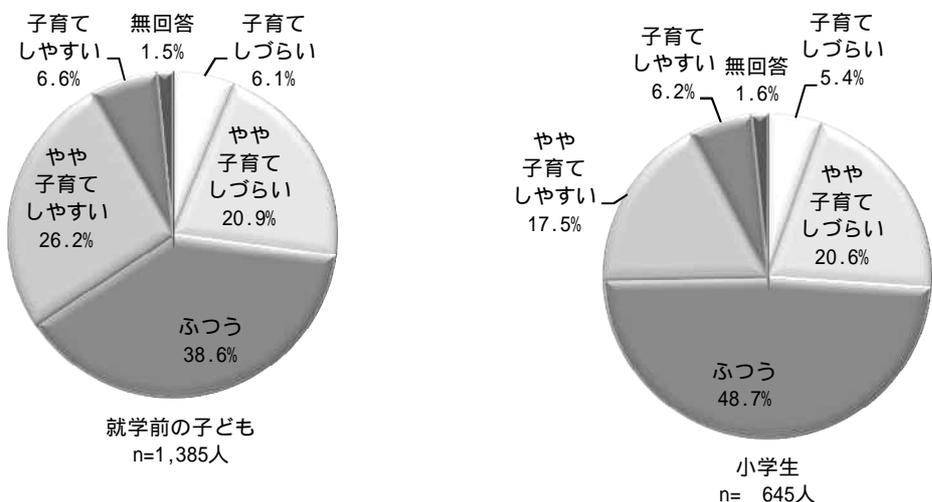
流山市の子育て支援の環境や支援に対する満足度について、就学前の子どもでは「満足」と「やや満足」の計が26.2%、「やや満足していない」と「満足していない」の計が31.3%で後者が5.1%上回っています。また、小学生でも「満足」と「やや満足」の計が18.5%、「やや満足していない」と「満足していない」の計が33.4%で後者が14.9%上回っています。

問 35 [問 25](1) 流山市の子育て支援の環境や支援への満足度の状況



流山市は子育てしやすい街だと思うかについては、「子育てしやすい」「やや子育てしやすい」を合わせると就学前の子ども(32.8%)、小学生(23.7%)、「子育てしづらい」「やや子育てしづらい」を合わせると就学前の子ども(27.0%)、小学生(26.0%)となっています。

問 36[問 26] 流山市は子育てしやすい街だと思いますか

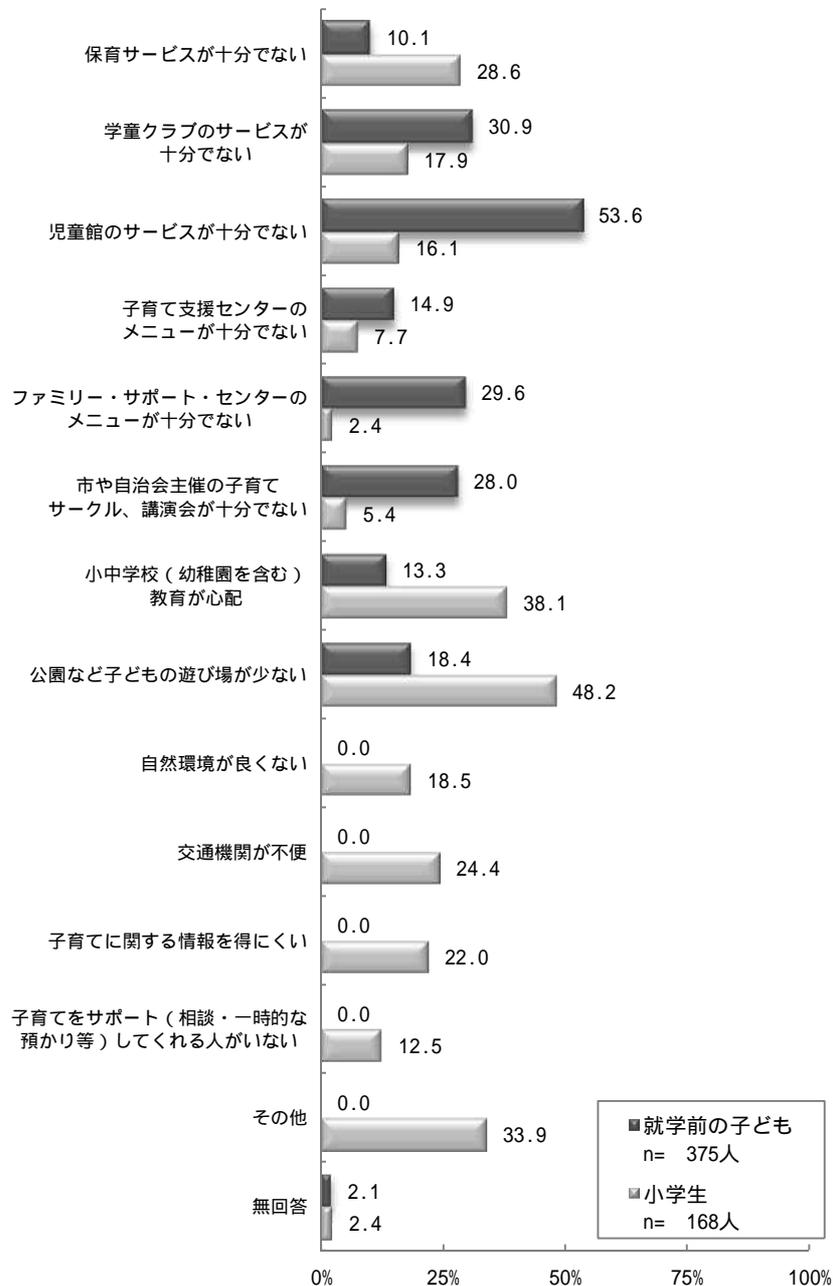




子育てしづらい理由は、就学前の子どもは「児童館のサービスが十分でない」(53.6%)、小学生は「公園など子どもの遊び場が少ない」(48.2%)が最も多くなっています。

子育てしやすい理由は、「自然環境が良い」(就学前の子ども 59.9%、小学生 52.3%)が最も多くなっており、次いで、就学前の子どもでは「公園など子どもの遊び場が多い」(40.7%)、小学生では「小中学校(幼稚園を含む)の教育が安心」(45.1%)が多くなっています。

問 36-1 子育てしづらい理由 (MA)





問 36-2 子育てしやすい理由 (MA)

